

第1節

様々な勤務場所で任務を全うする自衛隊員

防衛省・自衛隊は自衛官や事務官、技官、教官などで組織される。全ての隊員が高い士気と誇りを持ち各種任務にあたっている。

1

自衛官

わが国は、およそ1万4,000の島々で成り立っている。広範囲にわたり四方を海に囲まれた国土を守るため、24時間365日、国内外の過酷な環境下でも危険を顧みず責務の完遂に努めている自衛官たちがいる。

自衛隊はわが国の平和と独立を守るという使命のもと、領土・領海・領空を守るための活動を行う。国民に最も近い場所でその生命を守るため、日々鍛錬を重ね、災害派遣や有事などに備え、24時間365日、初動部隊による備えの態勢を確保している陸上自衛隊。海洋国家である日本の広大な領海の平和と安定に貢献するため、24時間365日態勢で警戒監視などに当たる海上自衛隊。日本の空を守るため、昼夜問わず緊急発進などにあたるとともに、宇宙空間の安定的利用を担う航空自衛隊。これら自衛隊、ひいては自衛官の存在やその働きにより抑止力が成り立っている。

近年、サイバー空間、海洋、宇宙空間、電磁波領域などを利用した脅威が急速に高まり、自衛隊はこれまでよりもさらに様々なフィールドに活躍の場を広げている。

また、大規模な自然災害、航空機事故などに際して国民の生命や財産を守るため速やかに人命救助、捜索、離島などの救急患者の輸送などができる態勢を保持している。各種の災害に迅速かつ的確に対応するために災害派遣計画を策定するとともに、平素から計画の実効性を高めるための訓練に取り組んでいる。

さらにテロや地域紛争といった地球規模の問題を解決する国際平和のための活動を行う。諸外国との国際協力が重要性を増すなか、派遣される隊員一人ひとりがわが国の国際平和協力活動などの主役として活躍することが求められている。

自衛隊には部隊を指揮する幹部と部隊の中核となる曹士がいる。

幹部は各自衛隊の任務、部隊の行動方針を理解したうえで、部隊が何をすべきかを考え、的確に判断でき、か

つ、部下を率いて行動できることが求められている。任務を完遂するためには部隊を構成する一人ひとりの意思と能力の結集が不可欠である。部下を率いていく幹部は国民の生命を守るのはもちろんのこと部下となる自衛官に対してもその責任を負う。国防の根幹を担う責任と卓越したリーダーシップを持つ幹部の果たす役割は大きい。

曹士は部隊の中核を担い活躍する現場のスペシャリストである。入隊後は各自衛隊の教育課程を通じて陸・海・空曹士として必要な資質を養うとともに、部隊勤務に必要な基礎的知識および技能を習得する。その後それぞれが各分野のスペシャリストとなるように教育・育成カリキュラムを組んでいる。自衛隊の職種は多岐にわたり、どの分野においてもプロフェッショナルである曹士の存在がなくてはならない。

国民の生命を守るため、現場で汗を流す隊員が誇りと名誉をもって任務にまい進できる環境を作り上げること、そしてその家族が安心して帰りを待てる環境を整えることも、防衛省・自衛隊にとって重要な使命である。



令和7年度新隊員入隊式の様子

2 事務官・技官・教官など

事務官は、本省、防衛装備庁の内部部局などで防衛行政や自衛隊の運用をはじめ安全保障政策全般に関する様々な政策の企画・立案を担うほか、情報本部における国際情勢の収集・分析・評価、全国各地の部隊や地方防衛局などでの行政実務を担っている。

日本周辺には、核兵器を含む大規模な軍勢力を有する国家や地域が複数存在し、軍事活動の活発化の傾向が顕著となるなか、政策で平和を創り、この国を守り未来に繋げていく各種防衛政策のスペシャリストである事務官の活躍がますます期待されている。わが国の国益に適った防衛政策には、それを立案する適切な組織、人材が必要不可欠である。さらに自衛隊を運用していく上で法令の裏付けも欠かすことができない。そして国民の信頼・理解があってこそその防衛省・自衛隊であることから国民への説明、情報発信も求められる。国家間のパワーバランスの複雑化や宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域の利用が急速に拡大し、これまでの安全保障のあり方が大きく様変わりしている。このような変化の激しい時代の中でも、日本の平和と安全を守るため、様々な安全保障上の課題に対応している。

また、全国様々な駐屯地や基地などで部隊行動の基盤を確立するための実務を行う。例えば陸上自衛隊の駐屯地に設置される駐屯地業務隊では、駐屯地および演習場施設の維持管理機能に関する業務のほか、所属隊員の福利厚生業務などを行っている。

また海上自衛隊の補給処においては、航空機に搭載される機器部品の必要な数量の算定・調達などの業務がある。さらに航空自衛隊においては地上にあるレーダーや無線機などの整備や修理をするために企業との契約手続を行う事務などを担当する。

これら以外にも各自衛隊の中央機関である幕僚監部において、様々な計画の立案などを行うとともに、省内各機関のみならず、他省庁との調整も行いつつ、各自衛隊の運営基盤の整備に携わる。また、自衛隊と地域社会をつなぐ総合窓口である地方協力本部においては、自衛官に対する自衛隊への入隊・入校から離職後に至るまでの

支援を行う。

防衛省・自衛隊の各組織を結び付け、それぞれが機能を発揮できるように事務官は大きな責任を果たしている。

技官は、本省、防衛装備庁の内部部局などで防衛施設（司令部庁舎、滑走路、火薬庫など）や防衛装備品などの物的基盤に関する各種政策の企画・立案を担うほか、情報本部における先端技術情報の収集・分析・評価、全国各地の部隊や地方防衛局などでの行政実務、防衛施設の建設工事、自衛隊の運用に欠かせない装備品の研究開発・効率的な調達・維持・整備、隊員のメンタルヘルスケアなどに従事している。

日本の平和は、全国約24万人の自衛隊員と、この巨大な組織を運用するための仕組みだけでは実現できない。わが国の防衛は、駐屯地・基地などの防衛施設や、車両・艦船・航空機などの装備品があってこそ実現するものである。技官は、いかなる事態にも対応できるよう、防衛省特有の多種多様なこれら物的基盤を安定的に確保するために技術力で日本の平和に貢献する。

そして技術的な知見を背景に装備品にかかる各種政策の企画・立案や理工学の幅広い知識に基づいた数理的分析評価の手法を通じ、部隊運用や防衛力整備に向けた能力分析を行うなど技官の活躍の場は拡大を続けている。刻々と変わる新しい脅威により国民を守るための防衛力を発揮する機能が失われないよう、防衛施設、装備品を通してこの国の安全保障を支えている技官の存在は防衛省・自衛隊に不可欠である。

教官は、防衛大学校、防衛医科大学校や防衛研究所などで、安全保障に関する幅広い分野の高度な研究や、隊員に対する質の高い教育を行っている。

近年、自衛隊には任務の多様化や国際化などに柔軟に対応する質の高い人材の確保が求められている。自衛隊創設から70年のなかで培われたノウハウや先人たちによって築き上げられてきた経験が教官を通して組織に受け継がれてきた。教官の持つ優れた専門知識は国家安全保障に大きく貢献している。



VOICE

自衛隊員の家族の声 (お子様)

多用途支援艦「えんしゅう」 横須賀 運用員 2等海曹 ^{みのわ} 箕輪 ^{ゆうた} 雄太のお子様

私のお父さんは、海上自衛隊の「えんしゅう」という船に乗っていて、この前の台風22号が日本に来た時に、八丈島が台風のせいで、水が足りなくなり、給水車が必要だったことになり、お父さんが「災害派遣に行かなきゃ」って言って、家を出かけて船に給水車を積んで、すぐに八丈島に届けに行ってきたという話を聞いて、おどろきました。お父さんは、風と波が強くて、船から

給水車を降ろすのにすごい苦労したと言っていて、ニュースで八丈島の映像を見たら、ホントに風が強いなかで、お父さんの船だけじゃなくて、いろんな人達がいろんな仕事をしていて、きっと私たちが困ったときでも助けてくれるかなと思って、自衛隊の人たちはすごいなあと思いました。



うねりが大きいなかでの車両陸揚げ実施



箕輪2曹と子供たち



VOICE

自衛隊員の家族の声 (妻)

第1輸送ヘリコプター群第103飛行隊 木更津 補給陸曹 2等陸曹 ^{むらやま} 村山 ^{しゅんすけ} 俊輔の妻

自衛官という仕事柄でしょうか。時間を守ることや身の回りを整える習慣に誠実さをいつも感じています。時には朝早くから出勤することや災害派遣、長期の訓練などで不在になることもあります。『家のことは頼んだよ。』と声を掛けてくれ、その言葉には、家族への信頼と自衛官としての仕事に対する覚悟が感じられます。2人の息子が生まれた際には、それぞれの出産後に約1カ月ほどの育児休暇をいただき、慣れない育児や家事と一緒に向き合い、夜中の授乳やおむつ替え、沐浴、食事の準備まで、大変な時期を乗り越えられたのは夫の支えがあったからだと思心から感謝しています。

休日は家族との時間を大切に、公園へのお出かけや買い物など何気ない日常に幸せを見出してくれます。家事に疲れた私を気遣い、子どもたちと出かけてそっと自分の時間をくれる、その寡黙な優しさに温かさを感じています。

仕事に向かう凛とした背中と、家庭で見せるやさしい父親の姿の両方を持つ夫を、私は妻として、家族として誇りに思い、これからも互いに支えあいながら歩んでいきたいと思っています。



息子と過ごす村山2曹



VOICE

宇宙領域の安定利用を根幹から支える

宇宙作戦群第1宇宙システム管理隊 府中 システム管理班員 3等空曹 佐藤 やすなり 泰成

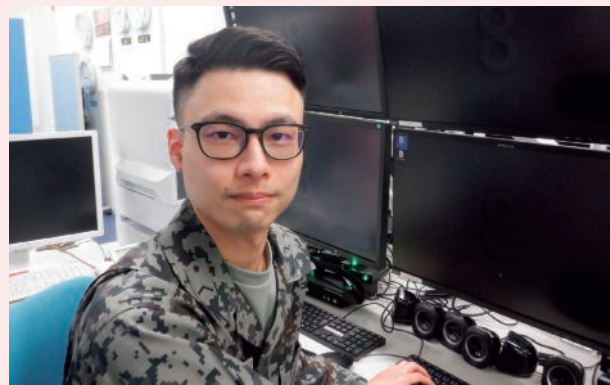
広大な宇宙空間を監視する任務は、地上のシステムによって支えられています。

私の任務は、宇宙状況把握運用システムの24時間365日の安定運用を継続させることです。日々の主な業務は、システムの維持管理、高度な専門性を持つ民間企業との各種調整や作業監督、サイバー攻撃の監視に至るまで多岐にわたります。これらの業務が、わが国の「宇宙の安全保障」を根幹から支える基盤となっています。

現代の宇宙領域は、もはや単独では語れません。近年、ウクライナ侵略の際に見られた衛星通信網への大規模なサイバー攻撃が示すとおり、宇宙とサイバーは切り離すことのできない領域として一体化が進んでいます。システムへのサイバー攻撃は、私たちの任務遂行に多大な影響を与え、宇宙空間の安定利用にも致命的な空白を生じさせます。そのため、初度対処を含めたサイバー防衛の重要性は日々高まっており、現場では常にサイバー部隊等との連携を重視し、監視態勢を万全にしています。

現代戦において、陸・海・空領域における高度な作

戦運用には、宇宙領域の持続的かつ安定的な利用が必要不可欠です。この「領域横断作戦」の要である宇宙領域の任務を、システムの運用という側面から下支えできていることに大きなやりがいを感じています。今後も、国家防衛の根幹となるシステムを継続して運用させるため、日々の任務に邁進していきます。



第1宇宙システム管理隊での勤務風景



VOICE

日本を守る宝石を見つけ出す

今年で入省20年を迎えました。これまで情報本部や防衛政策局調査課での勤務のほか、研修や留学、大使館勤務を通じて、分析官として必要な知識・経験を身につけてきました。現在は担当地域の政治、外交、軍事などに関する情報から、どの情報が日本の安全に重要かを判断し、班員に分析と高官への報告を指示しています。また、他省庁や外国政府・軍、専門家と意見交換や通訳を行っています。各国ならではの視点があり、常に刺激を受けています。

情報業務には、無数の情報の中から政策に資する宝石のような情報を見つけ出す作業があります。20代の頃、「根気が成否を分ける」という上司の激励を受けてから、自分が見落とせば、日本が見落とすという覚悟で必死に仕事をしてきました。現在は電波、画像などのあらゆる情報源（オール・ソース）を扱える部署におり、

情報本部 市ヶ谷 分析官 事務官

やりがいがある一方、情勢の深刻さを防衛白書などで多くの国民に知ってもらう必要性を感じています。



情報本部による打ち合わせの様子（イメージ）



VOICE

電磁波領域のプロとして

私は、令和3年12月以降、陸上総隊司令部運用部電子作戦隊準備室を経て、陸上自衛隊における電磁波領域専門部隊の一員として、わが国が電磁波領域における優勢を確保するための電子戦活動を行っています。

諸外国、海上・航空自衛隊、関係省庁および部外機関など様々な組織と現場レベルでの意見交換、共同訓練などにおいて、あらゆる環境下においても統合・共同運用に寄与できる電磁波領域の戦いができるように職務に邁進しています。

また、電磁波領域の戦いに求められる知識と能力を向上させるため、階級を問わず知恵を出し合う班内勉強会のほか、各種研修への参加、官民連携により、各国のシステム通信や電磁波領域にかかる技術動向と知識を常にアップデートさせて日々の訓練に全力で取り組

電子作戦隊 朝霞 1等陸尉 ^{たなか ゆうき} 田中 祐貴

むなど、電磁波領域の最前線に立つ者としての覚悟とやりがいをもって任務に取り組んでいます。



電子戦装備を展示説明する筆者（左）



VOICE

音楽を通じた平和への貢献

陸上自衛隊 西部方面音楽隊 健軍 音楽陸曹（声楽担当） 3等陸曹 ^{みずかみ まりな} 水上 珠奈

「♪花は咲く、いつか生まれる君のために」

これは2022年にオマーン国首都マスカットで行われたオマーン軍楽祭において西部方面音楽隊が演奏した「花は咲く」の歌詞の一節であり、現地の方々には分からない日本語の曲を真剣なまなざしで聴き入ってくれました。

この事業への参加は、生まれた国、環境や話す言葉が違って、音楽はあらゆる垣根を越えて人々の心に伝わるということを感じられた貴重な経験となりました。

令和7年度自衛隊音楽まつりにおいて、日本武道館で「トゥーランドット」を歌わせていただいた際にも同じ感覚を経験し、外国語の歌を非常に真剣に聞いて下さった来場者の方々とオマーンの方々が重なって感じられ、音

楽の力の大きさをますます実感できるようになりました。

私が自衛隊に入隊して5年が経ちますが、日々の訓練や演奏業務に従事するなかで思うのは、「この音楽の力を通じて平和の尊さを、そして自衛隊の活動やメッセージを広く世の中に発信したい。そして、その姿が隊員の励みになり、自分の職務に誇りを感じてもらいたい。」ということです。

その演奏活動を通じて世の中に貢献することが、自衛隊における音楽隊の存在意義なのではないかと私は考えます。

これまで80年の長きにわたり平和を維持してきた日本が、今後もそうあるために何をするべきなのか。私は音楽を通して貢献するべく、自身の自衛隊人生をかけて演奏活動を続けていきたいと思います。



令和7年度西部方面音楽隊巡回演奏会（大分）での様子



令和7年度自衛隊音楽まつりでの様子